

部会をとことんご利用下さい

東海大学 大江 俊昭

この度、バックエンド部会長に就任することになりました東海大学の大江でございます。先の選挙において、副部会長 妹尾氏をはじめ、以下の 10 名の新運営委員が選出され、9 月の部会総会で正式に承認を頂き、運営委員会活動を開始することとなりました。

副部会長 妹尾 宗明（日本原子力研究所）
運営委員 石川 博久（動力炉・核燃料開発事業団） 出光 一哉（九州大学）
佐藤 正知（北海道大学） 田中 知（東京大学）
田中 博（電力中央研究所） 田辺 博三（原子力環境整備センター）
中山 真一（日本原子力研究所） 牧野 正彦（日揮株式会社）
松本 史朗（埼玉大学） 山名 元（京都大学） （敬称略）

先の宮崎での部会夏期セミナーでは、橋本前部会長から役員選挙結果の御報告の際に、“部会長の年齢が一気に若返ります”とご紹介いただきましたが、運営委員の方の構成は、御覧の通り、若手からベテラン（どなたをこの範疇に入れるかは申しませんが）まで、皆様良くご存じの人材を配しております。各人ともに個性豊かで、委員会の運営も非常に面白く、楽しみであると共に、委員会そのものが建設的な討論の場となるものと予想されます。

さて、本部会運営に関する当面の課題として、①選挙規約を含めた規約改正にまず着手します。これは事務的な作業ですから、それとは別に、②若手研究者への助成活動、③研究ワーキンググループの設置等、これまでとはひと味違った活動を目指します。また、最近ややマンネリ化しつつある夏期セミナーに新工夫を凝らし、参加数の減少傾向を増加に反転させるのも急務です。いずれにしても、「部会をもっと利用していただける仕組みを作る」ことを基本に考え活動したいと存じます。

さらに、成果発表の場として本誌の刊行を活動の中心に置きつつ、研究の途中段階を支援する方法も検討いたします。その意味で③の「研究ワーキンググループ」は、萌芽的な研究のお手伝いをするのが目的です。具体的にどのような形になるかは、これからの検討に依りますが、公的組織としての部会のポジションを利用して、上手な形態を模索したいと考えます。

かねてから、部会を情報交換ができる場にしたい、と考えておりましたが、そのためには情報の発信基地でなければなりません。やっとホームページの開設 (<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/aejs/>にリンク) にこぎつけた程度で、運用の仕方にも内容にもまだまだ改善の余地が残っておりますが、部会が発信できる情報は何か?をよく考え、この便利な道具を使いきるべく、検討を重ねたいと考えます。

冒頭に、運営委の若返りの話をご紹介しましたが、逆に若輩故の暴走も十分あり得ます。これまで述べた「... します」「... と考えます」はすべて私個人の意見であり、運営委員会での結論ではありません。これは一つの暴走と言えます。また、本来ならば新部会長として、格調高く巻頭言を書き起こすべきところですが、むしろ皆様に現状をお知らせし、それにどのように取り組む姿勢であるかをお伝えすることにしました。これもまた一つの暴走であります。